

[トップページ](#)へ[万葉12歌人とゆかりの土地](#)[12. 大伴家持の歌とゆかりの地](#)に戻る

## 越中国府

大伴家持は弱冠29歳で越中国司となり、伏木（現、高岡市伏木町）の国府に5年間滞在した。この間、周囲一帯の自然の美しさに触発された家持は、多くの歌を残し、かねてからの懸案でもあった万葉集の編纂にも意欲的に取り組んだ。万葉集に残された家持の歌は長、短歌合わせて473首といわれるが、実にその半数が、この5年の越中滞在期間に作られている。

家持が過ごした越中国府は、JR氷見線の伏木駅西方近くの勝興寺付近にあったとされるが、今では、その跡を示す石碑が残されているのみである。

図1.越中国府跡の位置マップ：国府は射水川河岸段丘の見晴らしが良い場所にあった（クリックでマクロマップ）



引用先: YahooMap/一部追記

写真1.かつて栄えた伏木駅構内：30年以上前の写真、右側の貨物ヤードは今は廃線に（クリックで拡大）



引用先: <http://senrohaisenju.cocolog-nifty.com/blog/2009/01/1979930-6356.html> 懐かしい駅の風景

写真2.勝興寺本堂：浄土真宗本願寺派の寺院。文化財を多く有することで知られる。（クリックで拡大）



引用先: <http://photozou.jp/photo/show/203651/227000815> フォト蔵 勝興寺本堂

写真3.越中国庁跡を示す石碑:勝興寺本堂裏手にあり、背面は万葉歌碑(クリックで拡大)



引用先: <http://blog.livedoor.jp/coco612/archives/3304866.html> 古の風に吹かれて 越中国庁跡

写真4.越中国守館跡を示す石碑:伏木気象資料館(旧伏木測候所)門前にある(クリックで拡大)



引用先: <http://blog.livedoor.jp/coco612/archives/3304866.html> 古の風に吹かれて 越中国庁跡

<参考文献>

<http://komatsu0513.heteml.jp/ettyu.html> 越中国府 - 国府物語

<https://ja.wikipedia.org/wiki/越中国>

<http://blowinthewind.net/manyo/manyo-echukokufu.htm> 万葉の旅 越中国府

[大伴家持の歌とゆかりの地](#)に戻る